

リスクマネジメント最前線

2011-12 (3月31日)

東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050

東京都千代田区丸の内 1-2-1

TEL 03-5288-6589

FAX 03-5288-6590

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社

http://www.tokiorisk.co.jp/

<東日本大震災 臨時号 No.8>

計画停電地域での交通リスク～横断する歩行者が見えない～

計画停電が実施されているエリアでは、信号が滅灯・警官等もない交差点が多くなる。このとき、車両だけではなく歩行者の横断も不規則になる。交差点付近での歩行者や自転車の視認（実際に目で見て確認すること）が重要になるが、ここでは視認行動での注意をまとめる。

計画停電中、夜間走行時の注意点

グレア現象



夜間走行中、対向車のヘッドライトが直接目に入ったとき、瞬間的に網膜が機能不全を起こし視認が難しくなる。これを「グレア現象」と呼ぶ。特に停電中は外灯が消え周囲がいつもより暗いため、グレア現象がより強く起こりやすい。**これが交差点付近で起きると歩行者や自転車を視認できないことがある。**

対向車のヘッドライト

グレア現象は、停電中に暗闇を長時間走行しており暗順応(※)している時に起きやすい。

停電中では、ヘッドライトをハイビームにして走行する車両が多いことが想定され、直接目に入ると視認がより難しくなる。

※明るいところから暗いところへ入った際に、その瞬間は何も見えなくなり、時間経過とともに徐々に視力が確保されるという現象(東日本大震災臨時号No.7参照)

夜間、交差点を横断する歩行者を視認することはドライバーの視力に関係なく困難である。下の写真では、**交差点通過3秒前でも横断する歩行者は視認できず**、直前になりようやく人影を把握することができたケースである。特に黒いコートやスーツ姿の歩行者は視認が難しい。

歩行者視認



交差点通過3秒前

点線内に歩行者・自転車がいますが、ほとんど視認できない。



交差点通過直前

ようやく、歩行者と自転車が把握できた。

注意点

1. 対向車のヘッドライトを直接見ないこと。
2. 交差点付近、通過時は歩行者、自転車はいるという前提での減速と注意を行うこと。